



持続可能な成長を実現する 公民連携による新たな都市づくり ～脱炭素、SDGs/VLR、スマートシティ～

＜プログラム概要＞

横浜市



開催日程

2022年11月24日（木）～25日（金）

主催等

- 主催：横浜市
- 企画：Y-PORTセンター公民連携オフィス GALERIO 企画委員会（以下、「GALERIO 企画委員会」という）アジア開発銀行研究所（ADB）、国際協力機構（JICA）、スマートシティ・インスティテュート（SCI-Japan）、世界銀行東京開発ラーニングセンター（世界銀行 TDLC）、地球環境戦略研究機関（IGES）、YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE（YUSA）、横浜国立大学、横浜市立大学の有識者（50音順）及び横浜市国際局
- 後援（予定）：内閣府、外務省、財務省、経済産業省、国土交通省、環境省、シティネット

全体テーマ

持続可能な成長を実現する公民連携による新たな都市づくり ～脱炭素、SDGs/VLR、スマートシティ～

概要

アジア・スマートシティ会議（Asia Smart City Conference）（以下、「ASCC」という。）は、アジア諸都市、政府機関、国際機関、学術機関及び民間企業等の代表者が一堂に集まり、経済成長と良好な都市環境が両立する持続可能な都市づくりの実現に向けた議論を行う国際会議です。この会議では、各都市の代表者から提示される都市課題や成長へのビジョン、民間企業や学術機関による革新的ソリューションの提案及び公民連携を資金面で支援する国際機関の施策など、世界の様々な知見が共有され、参加者が新しいビジネスチャンスを発見できる場も提供しています。

第11回目となる今回は、「持続可能な成長を実現する公民連携による新たな都市づくり ～脱炭素、SDGs/VLR、スマートシティ～」をメインテーマに掲げています。持続可能な都市づくりに向け、ゼロ・カーボンの達成、SDGs/VLRといった都市評価方法を活かした取組、変化する社会的ニーズに応じていくスマートシティの推進などを、公民連携によって実現することが重要です。いま社会が求めている都市づくりに関して知見やノウハウ、ベストプラクティスを共有します。

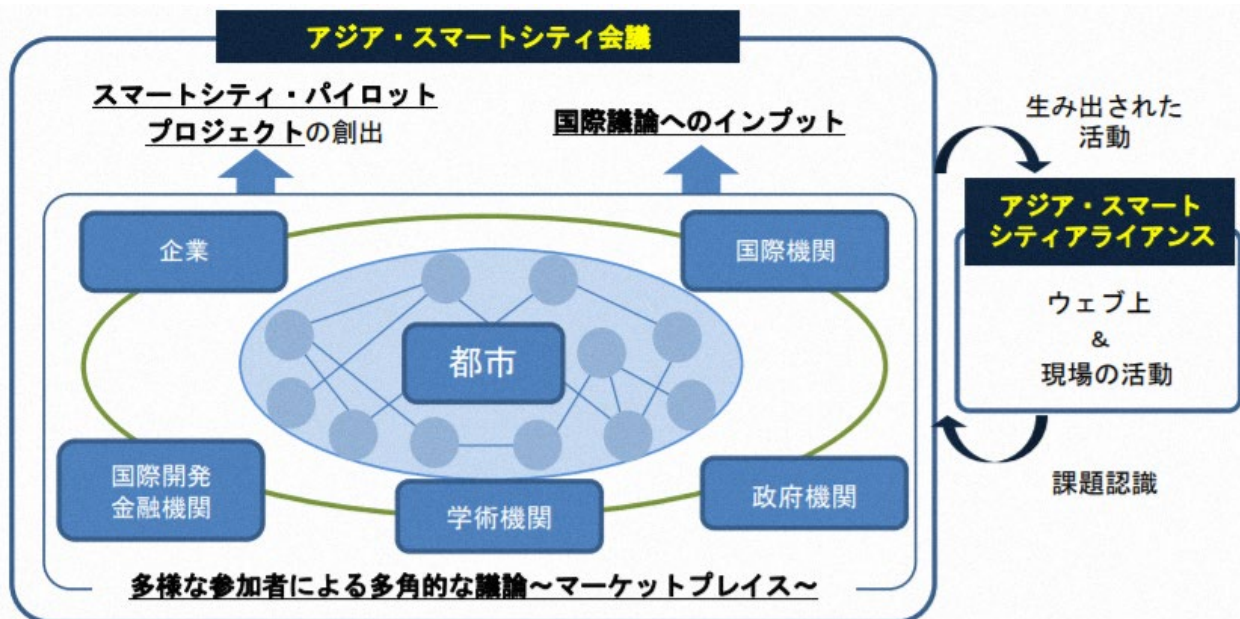
また、今回はメタバースを活用したレセプションや、ビジネスピッチなどの交流会を開催します。広くキープレイヤーの出会いの場を提供し、経済・社会・環境的に持続可能な都市づくりに向けて、ビジネス機会の一層の創出を目指します。

会議の特徴

第11回ASCCの目的と期待される効果は以下のとおりです。

- 1) 海外の持続可能な都市開発に関する情報・人が集まるマーケットプレイスの構築、ビジネス機会の創出
- 2) 脱炭素・SDGsなど国際社会の目標達成に向けた発信
- 3) 都市課題解決に向けたナレッジハブとしての進化・高機能化

ASCC の主な取組



GALERIO 企画委員会について

アジアにおけるスマートシティ開発の情報のハブとしての役割を高めるために、官民学の有識者が GALERIO 企画委員会を立ち上げました。本会議における各セッションは GALERIO 企画委員会が企画しました。国際機関や学術機関等と連携し、組織の壁を越え、広くスマートシティの推進をリードしてまいります。

プログラム表 (予定)

日付	日本時間	チャンネル	タイプ	概要
11月24日	午後	メタバース	レセプション	ASCC 登壇者・参加者によるレセプション レセプション内：横浜市大等 海外大学の学生による 新しい都市開発に関するワークショップの発表
		ウェビナー	ビジネス マッチング	YUSA 会員等と海外事業者間のビジネスマッチング
11月25日	13:00~13:10	ウェビナー	オープニング	イントロダクション
	13:10~14:20	ウェビナー	セッション 1	テーマ1：脱炭素社会の実現 モデレーター：アジア開発銀行研究所 (ADB)
	14:30~15:40	ウェビナー	セッション 2	テーマ2：VLRとSDGs モデレーター：地球環境戦略研究機関 (IGES)
	15:50~17:00	ウェビナー	セッション 3	テーマ3：スマートシティ開発 モデレーター：世界銀行東京ラーニングセンター (TDLC)
	17:00~17:10	ウェビナー	クロージング	閉会挨拶

レセプション 11月24日(木)

メタバースを活用し、出会いや新しいコミュニケーションが生まれる場をご提供します。

コンテンツ（予定）：

- ASCC 登壇者・参加者との交流
- 横浜市大・海外大学の学生による新しい都市開発に関するワークショップ

ビジネスマッチング 11月24日(木)

(一社)YUSA がビジネスマッチングを開催します。

ASCC ではこれまでも、展示会などビジネスマッチングの機会を創出してまいりました。イベント終了後は個別商談会を開催し、新たなマッチングをサポートします。

コンテンツ（予定）：

- 海外への事業進出の関心が高い企業 約 20 社によるセールスピッチ
- イベント開催後に行われる個別商談会

本会議 11月25日(金)

3つのセッションをウェビナー形式で実施します。

脱炭素、SDGs/VLR、スマートシティに関する国内外のベストプラクティスの紹介や議論を行います。

コンテンツ：

- **テーマ1：脱炭素社会の実現**

現在、日本の大半の地方自治体が2050年二酸化炭素排出実質ゼロを表明しています。表明自治体の総人口は、日本の人口の約9割に相当します。また、COVID-19のパンデミックによる負の影響も相まって、気候変動に合わせた金融・投資家の動きも加速しています。他にも、ダイベストメント、TCFD、RE100、SBT、カーボンプライシング、サステナブル金融など、脱炭素を取り巻くESG投資の規模は拡大し、企業への投資を呼び込み、持続可能な企業経営を実現し、ビジネス機会の拡大につながります。このため、脱炭素化は世界規模の環境施策である一方で、都市の持続可能な経済成長の面からも最重要政策になっています。

同時に、脱炭素化には、行政・市民・企業をはじめ、国や国内外の都市など様々なステークホルダーとの連携が不可欠であり、その都市はその調整役としても期待されています。

それでは、都市がこれまで実施してきた脱炭素施策にはどのようなものがあるのでしょうか。また、その事業においてどのようなステークホルダーとの連携が図られ、ESG投資の呼び込みが計画されているのでしょうか。本セッションではこのテーマについて議論します。

- **テーマ2：VLR (Voluntary Local Review) とSDGs**

都市の高密度化が進むに伴い、地域の生産性と住民の所得が向上しますが、同時に、これらは都市の持続可能な発展を妨げる新たな都市課題を生み出します。こうした状況下において、SDGsやパリ協定の実現を可能とする持続可能な都市を実現するためには、取り組むべき施策に優先順位を付ける必要があります。SDGsへの関心の高まりと

もに、世界中の 100 を超える地方自治体が持続可能な開発目標の進捗状況に関する自主的なローカルレビューである VLR を公開しています。日本国政府もこうした動きに対して支援の意向を示しています。VLR は、地域の事業者の参加と地域のイノベーションを促進するためのフレームワークとして機能し、都市の持続可能性を高めることが期待されています。本セッションではこのテーマについて議論します。

- **テーマ3 : Smart City 開発**

都市の価値を観察する一つの視点として、いかにその都市が内外の人々のニーズに対応し、社会・経済活動の惹きつけ役を担っているかという点が挙げられます。みなとみらいでは、コロナ禍以前より、人々のニーズの変化に応じた都市のマグネット機能の拡充を常に進めており、「商業・MICE 施設の拡充」、「企業の R&D セクターが集まるイノベーション拠点」、「人々がエンターテインメントを楽しむミュージック シティ」と都市機能を柔軟に拡充させてきた流れがあります。近年は、アフターコロナの新たな生活様式や高齢化社会への対応など、人々の関心事（働き方、教育、娯楽、安全など）の変化により発生してきており、これに伴い求められる都市機能も変わっていきます。

今後においても、人々のニーズ・関心を抽出し、都市の開発に反映することで都市の魅力度を向上させ、より多くの社会的・経済活動を誘起することで都市のバリューアップを実現していくことは世界の各都市の共通した目標の一つです。横浜市を含む国内外の諸都市ではどのようにこれを実現しようとしているのでしょうか。また、スマートシティという観点で、こうした取組のなかで最新技術はどのように活用されているのでしょうか。本セッションではこのテーマについて議論します。

【お問い合わせ先】

・会議の内容について

第 11 回アジア・スマートシティ会議事務局

E-mail: jp_ascc_secretariat@pwc.com

※横浜市からの委託を受けて PwC アドバイザリー合同会社が
第 11 回アジア・スマートシティ会議の事務局を担当します。

・参加登録について

(株) ステージ

E-mail: 11th_asia_smartcity_conference@stage.ac

※横浜市からの委託を受けて (株) ステージが
参加登録に関する事務を担当します。



第 11 回アジア・スマートシティ会議のウェブサイトはこちらの二次元コードから

